

## 要望内容

- オーバーツーリズムの課題が顕在化する中、都市部に集中するインバウンド需要を地方へ分散させ、日本全体の観光振興へとつなげることが重要。奈良県においても、受入環境の整備や観光資源の魅力向上などの取組を一層加速させていきたい。
- これらの取組を着実に推進するため、地方が地域の実情に応じて計画的に対策を講じられるよう、国際観光旅客税を財源として、単年度の補助金ではなく複数年度にわたり活用できる交付金制度の創設を求める。

## 国補助金の現状・課題

観光施策を計画的・一体的に  
推進しにくい

●各補助金をパッチワーク的に  
組み合わせる必要

●年次ごと、事業ごとに補助金  
関係事務（公募・申請・採択審  
査等）が発生し、国・県の事務  
負担が大きい

●補助金は事業採択が年度ごと、  
また、事業着手までに要する手  
続期間が長いため、必要な事業  
期間を確保することが困難

## 〈要望〉

## 支援メニューの一括交付金化

観光施策の計画的・一体的な  
推進が可能に

●一括交付金化することにより、  
包括的な施策の推進が可能

●年次ごと、事業ごとの補助金  
関係事務が不要となり、国、県  
の事務負担が軽減（コスト削減  
にも寄与）

●交付金による複数年配分化に  
より、連続的な事業の遂行が可  
能

県が取り組みたい施策例

「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を見据え、周遊・滞在観光を計画的・一体的に推進

支援内容ごとに独立した補助金メニューを一括交付金化

取り組みたい施策		国補助金（R7補正）
I	・世界遺産エリアへの自家用車乗り入れ対策 ・手ぶら観光対策 ・キャッシュレス対策	オーバーツーリズム対策等観光交通確保事業
II	・文化資源の発掘・修復体験、伝統行事への交流参加体験など体験コンテンツの造成	観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業
III	・飛鳥周辺エリアとの新たな交流の創出	新たな交流市場・観光資源の創出事業



縦割りの補助金を一括交付金化

“断続的”な施策実行から“連続的”な施策展開へ



国、県の事務負担が軽減

【補助金】（例）観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業（観光庁）

R8	2月	4月	5月	6～7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
請補助金申請手続き	公募開始	計画書等提出	計画採択	交付申請	事業実施 実施期間が半年未満					報告完了実績提出	補助金請求書提出	

【交付金】

年度		初年度	2年度	3年度	4年度	5年度
計画策定	→★					
事業実施期間		→😊連続的な施策展開が可能に→				